



市場株式会社 開発課  
宮崎千里(みやざき ちさと)  
川西 阜(かわにし さつき)  
「あなたにとっていちばんいいもの」をコンセプトとする家具メーカー、市場株式会社にて2014年4月入社。開発設計者。新ブランド・Berceau(ベルソー)を担当。  
有限会社ショックデザイン デザイナー  
加藤 将(かとう しょう)  
家具の産地でもある飛騨高山に拠点を置く、(有)ショックデザイン代表。家具デザインのみならず、建築や空間デザインなど幅広く活躍。Berceau(ベルソー)のディレクターとして市場株とタッグを組む。

# 挑戦する家具メーカー 「家族×子ども×成長」

「家族の暮らしと成長する家具」

●講師／市場株式会社 開発課 宮崎千里さん・川西 阜さん  
有限会社ショックデザイン デザイナー 加藤 将さん

子ども用の家具というと、成長とともにサイズや使い方が変わっていく、どうしても買い替えるを得ないケースが多いですね。おとなになるまで、長く愛着を持って使ってもらえる家具をつくりたい……。そんな挑戦をしたのが、「家具×子ども×成長」をテーマに新ブランドを立ち上げた家具メーカー、市場株式会社です。今回は、同社の開発設計者2名とともに、タッグを組んだ家具デザイナーを講師にお招きし、商品が生み出されるまでのストーリーや家具づくりに対する考え方をご紹介いただきます。

## 子どもを育む暮らしを提案する、家具メーカー

宮崎・川西：兵庫県加西市にある家具メーカー、市場株式会社開発課の宮崎と川西です。弊社は今年で創立60周年を迎えるにあたり、「インテリアを通して子どもを育む豊かな暮らし」を提案する業界のトッププランナーをめざし、ひとつのプロジェクトを始動することになりました。

子育て中、たとえば「まだ小さな体の子どもにちょうどいいローテーブルを買うべきか、小学生になっても使える大きめのデスクを買うべきか」といった家具に対する悩みをお持ちに

なったことはないでしょうか。「買い替えるのはお金もかかるし、長く使えるデスクがあればいいのになあ」と。そんな悩みや不満を解決する、より良い家族の暮らしを提供していきたいから、新ブランドを立ち上げることにしたのです。

新ブランド立ち上げにあたり、パートナーとしてタッグを組んだのが、外部デザイナーである加藤将さんです。

## 企業の体質に合ったデザインであること

加藤：飛騨高山を拠点に活動しているデザイナーの加藤です。私はデンマーク王立アカデミーで北欧のデザインを

学び、帰国後すぐ、あるメーカーのオフィアによって取り組んだ、子ども家具の商品企画によって、業界で注目していたできるようになりました。

私がデザインを考える上で大切にしていることは、「どんなものが商品企画を依頼いただいた企業にマッチするか」ということです。デザインというと、もののプロポジションを整えるのがポイントだと思われるかもしれませんが、しかし実際にはいろいろな事象を整理して、そのメーカーにとって一番適した商品開発を進める必要があります。

外部デザイナーに依頼がある場合の多くは、人目を引く様な派手さと華やかさを求められます。車のデザイ



ンであれば、スポーツカーのようなものが求められがちですが、必ずしもそれが似合う企業ばかりではありません。トヨタがフェラーリのような車ばかりを売り出してもあまりしっくりこないですよ。つまり、企業の体質に合ったデザインであることが大切なのです。

## 市場株式会社 プロジェクトの始まり

**加藤**：今回、私が市場株式会社から与えられたミッションは、会社のフラッグシップ（代表的取り組み）となるものを開発スタッフを育てつつ一連のシリーズをまとめるという役割でした。そんな形で始まったプロジェクトが、どの様に進んできたのか、デザインの裏側を今回はご紹介いたします。

いちばん最初に行ったのが、ブレインストーミングです。世代、性別、未婚の人、子育て中の人、バラエティーに富んだ人たちが集まり、それぞれの結婚や暮らし、抱える悩みなどを思いのままに発表し、整理していきました。そこから、暮らしに必要な「コトやモノ」を探っていきます。

整理してみると、まず、20代前半の方の特徴は、財力が乏しく、将来の計画も不透明。結婚していても一人暮らし並みの生活で、節約しながらコンパクトに暮らしているのではないかと

30代の特徴は、財力は少々あって社会的にも忙しい。ただ生活は自分の方向性を探りつつも、子ども中心のおもちゃに囲まれるような暮らしになりがちで、壁面収納などを求めているのではないかと。40代になると、子育ても中盤になっている人が多く、財力も社会的信用も大きくなる。ライフスタイルも確立してきて、家具も上質なものを集めて暮らしたいという志向になっていくのではないだろうか。

そのようなことをまとめて、羅針盤として商品企画は進んでいきました。

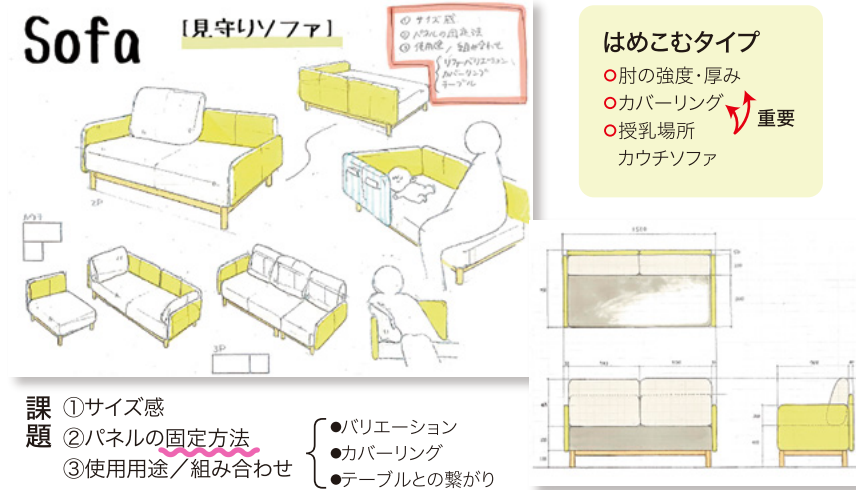
**川西**：ブレインストーミングで、同じ子育てをしている人でも年代の違いなどによって、考え方がいろいろあることがわかりました。それらを踏まえてターゲットをイメージしながら、「こういう人にはこんな家具が必要だな」「こんな機能があればいいんだな」とアイデアを出していきました。

## アイデアを 何度もブラッシュアップ

**宮崎**・**川西**：ここで、商品化につながった3つのアイテムのアイデアをご紹介します。ひとつは、「赤ちゃんを安心して寝かせられる、見守りソファ」です。「ベビーベッドで寝かせるほどではないけれど、ちょっとソファに寝かせて、家事をしながら赤ちゃん

の様子を見守りたい。でもソファに寝かせて落ちて怪我をしたり、不衛生になってしまってもイヤ」という意見を子育て経験者から耳にしました。そこでソファに寝かせた赤ちゃんが落ちないように、取り外しのできるパネルを付けてはどうかと考えました。ただ、安心安全を叶えるためには、パネルの簡単脱着としっかりした固定という相反する問題が大きな壁となりました。

「赤ちゃんを安心して寝かせられる見守りソファ」のアイデアスケッチ



2つめが、「成長に合わせて長く使える、親子デスク」です。子どもが幼くリビング学習をする時期にはリビングに置いて使え、小学校に入れば学習机として子どもだけで使える机がほしいという希望を多く聞きました。ただ、机の組み合わせ方や収納の充実に課題がありました。

3つめが、「独立国家のようなベッド」です。子どもは自分の基地のように、上は高いところから優越感を感じながら遊べて、下は潜り込むように寝られます。子どもの頃の遊びやワクワクからデザインしました。さらに兄弟が増えた時には2段階ベッドとして使いたいという意見をいただき、商品としての広がりを考えるヒントになりました。

**加藤**：これらのアイデアを元に、実際に模型を作っては検証するという作業を繰り返していきました。また、飛騨高山にある家具工場に彼女たちに来てもらい、実際に家具をつくる職人ともコミュニケーションをとり、問題解決の糸口を見つけ、利便性を高め安全性を確保することを意識しながら設計図に思いを込めてゆきました。

## 新ブランド「ベルソー」は、「ゆりかご」という意味

**加藤**：新ブランド立ち上げにあたり、

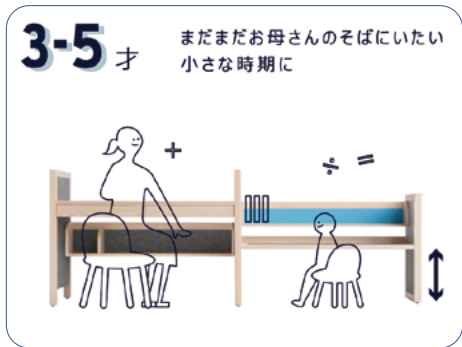
【写真1】



【写真2】



【図1】



加藤…それぞれのアイデアが少しずつ  
**夢とワクワク感のある  
 家具をつくる**

市場株式会社から最初に、「Berceau  
 (ベルソー)」というブランド名をい  
 ただいていました。フランス語でゆ  
 りかごとという意味です。赤ちゃんを  
 優しく包み込むような印象のブラン  
 ドで、子育て全般を応援できる家具  
 シリーズにしようということになり  
 ました。子育てをしながら親も育つ  
 ていきます。ですから、家族の成長、  
 家族の幸せを包みこむようなブラン  
 ドにしていきたいと思いました。

形になってきた時、Berceauというブ  
 ランドをどのようなイメージで打ち  
 出すべきかを考えました。変化する  
 シリーズであることを思うと、子ども  
 はいつまでも子どもではない、だから  
 と言っておとなも童心が消え失せた  
 わけでもないよなって、そう考えたと  
 きにたどり着いたのが、子どももおと  
 なもワクワクできるファンタジーの  
 世界でした。例えるなら夜空を自由  
 に飛び回るピーターパン。そんな世  
 界観で商品を提案してゆけたら楽し  
 いのではないかと思いました。  
 そこで、ファンタジーを楽しく演  
 出してはどうだろうと思いつきまし  
 た。たとえば、かぼちゃに魔法をか  
 けてシンデレラの馬車になるように。  
 そんな発想から、ウインナーチェ  
 アと名付けたイスを作ってみました。

魔法をかけたのは、イギリス発祥の  
 ウインナーチェアという笠木(背も  
 たれが一番上の部品)と板座の間に  
 細い丸棒が何本も刺さっているタイ  
 プのイスです。  
 このウインナーチェアの名前をも  
 じって、プリント焼き上がったウイ  
 ンナー(笠木)に、サクッとフォーク  
 (背棒)を刺した瞬間に魔法をかけて、  
 イスという形にしてみたのが、【写真  
 1】のウインナーチェアです。  
 また、お子さんが大好きなプリン  
 の愛らしいフォルムをイスというプ  
 ロダクトにしたのが、【写真2】です。  
 これら2つのイスは、実はいずれも  
 座から下は同じです。でも、上を変  
 えるだけでまったく印象が違います  
 よね。一定の部分を共有することで、  
 コストも抑えられます。

**成長に合わせて変化させ、  
 長く使えるデスク**  
 川西…さて、先ほどアイデア段階とし  
 てお話しした、「成長に合わせて長く使  
 える、親子デスク」が実際の商品とな  
 ったのが、【図1】です。パーツを足し  
 たり引いたりして、子どもの成長に合  
 わせて変化するシステムデスクです。  
 子どもさんが小さいときはおとな  
 用デスクを横に配置して、絵を描いて  
 いた子が「ママー」と呼び掛ければ、  
 「ん？」と言ってすぐに横を見てあげ  
 られるような親子デスクとして使っ  
 てもらえます。  
 そして、小学校に上がるころには、  
 小さなデスクを大きなデスクの上に  
 そのまま乗せて金具で固定すれば、学  
 習機に変化します。



さらに大きくなって、パソコンを使うようになると横にプリンターを置きたくなります。そんな時は、上置きしていたラックを下ろして横付けのラックとして活用できます。高さ調節や金具でしっかり固定する機能がありますので、安全に長く暮らしの形に合わせて使っていました。

### 小学生から大人まで

### 高さ調節して、使えるイス

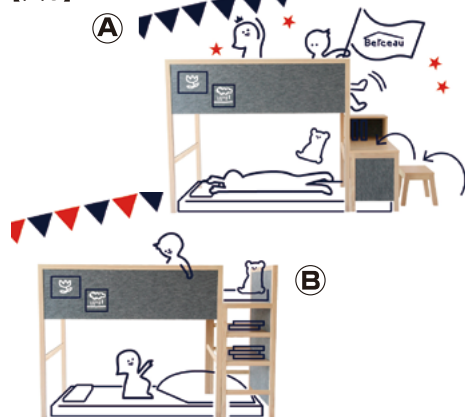
宮崎：次に、私が設計を担当して商品化した、高さ調節ができるイスをご紹介します。横にあるネジを回すと、座面と足置きの高さ、背もたれの位置が調節できるので、小学校に入学するところからおとなになるまで使えます。【図2】

イス横の斜めのフレームがしっかりとデスクに収まる形状になっているのも特徴です。また、背もたれ部に取っ手があるので、さっとイスを引くこともできます。

【図2】



【図3】



### ロフトベッドとしても 2段ベッドとしても

宮崎：商品として完成した「独立国家のようなベッド」が【図3】です。Aの使い方では、ステップが上がった、見晴らしのいい上段のスペースは遊び場に。寝るのは下という今までにないベッドです。

アイデア段階で課題になっていたのが、本体だけでは上で寝るにはサイズが小さく2段ベッドとしては使えないことでした。そこで、Bのようにシェルフを組み合わせることで、兄弟ができて仲良く上下で寝られる2段ベッドとして使えるよう完成させました。ベッドのパネルにはフェルトが貼ってあるので、ぶつかってもクッション性がありますし、吸音性もあります。ピンを刺しても目立たないクリップ

ボードにもなりますので、アイドルの写真を貼ったりして楽しんでもらってもいいですね。

### そろばんをヒントに 完成した、見守りソファ

加藤：先ほど紹介した「見守りソファ」は、アイデア段階の「赤ちゃんが落ちないよう、取り外しできるパネルを付けては？」というコンセプトは良かったんです。しかし、安全性を考えると、簡単に取り外しができるものは簡単に外れてしまうのです。行き詰りました。

実は、市場株式会社起源はそろばんづくりで、徐々に家具メーカーにシフトした会社です。そろばんは、枠の中でコマを上と下に自由に動かしますね。このそろばんの動きを参考に、パネルを抜き差しするのではなく、パネルが付いたワゴンを自在に動かし、ソファの前にびたっと添わせればいいのではないかと考えました。【写真3】

【写真3】



川西：このパネル付ワゴンは、普段はソファの横に置いておき、赤ちゃんを寝かせたいとき、さっと移動させます。するとベッドのような囲いができて、赤ちゃんが落ちる心配がなくなり、オムツなどの赤ちゃん用品を入れておけます。

赤ちゃんが寝そべるスペースには、汚れ防止や衛生面を考えたカバーも取り付けることができます。

### 小さな願いを拾い集め、 よりよい暮らしの提案を

加藤：このようにして新ブランド・Becauの一連のシリーズができあがりました。私たち開発者は、モノを生み出す以上、捨てられてゴミになる可能性も常に含んでいます。長く愛着を持って使い続けてもらい、時を経て子どもが親になったとき、自分が幼少期に使ったものをそのままわが子に使わせたいと思ってもらえるような家具をつくれたらと願っています。

宮崎・川西：Becauの開発を通じて、家族×子ども×成長をテーマに、暮らしのなかにまだまだ隠された悩みや不満が転がっていることに気づきました。皆様の小さな願いを拾い集め、より良い暮らしの提案を今後も続けていきたいと強く思います。